

四半期報告書

(第63期第2四半期)

自 平成21年7月1日
至 平成21年9月30日

777電子株式会社®

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
3 関係会社の状況	2
4 従業員の状況	2
第2 事業の状況	3
1 生産、受注及び販売の状況	3
2 事業等のリスク	4
3 経営上の重要な契約等	4
4 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	4
第3 設備の状況	6
第4 提出会社の状況	7
1 株式等の状況	7
(1) 株式の総数等	7
(2) 新株予約権等の状況	7
(3) ライツプランの内容	7
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	7
(5) 大株主の状況	8
(6) 議決権の状況	9
2 株価の推移	9
3 役員等の状況	10
第5 経理の状況	11
1 四半期連結財務諸表	12
(1) 四半期連結貸借対照表	12
(2) 四半期連結損益計算書	14
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	16
2 その他	22
第二部 提出会社の保証会社等の情報	23
[四半期レビュー報告書]	25

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年11月9日
【四半期会計期間】	第63期第2四半期(自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)
【会社名】	フクダ電子株式会社
【英訳名】	FUKUDA DENSHI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 福田 孝太郎
【本店の所在の場所】	東京都文京区本郷3丁目39番4号
【電話番号】	(03)3815-2121(大代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 経理部長 福田 修一
【最寄りの連絡場所】	東京都文京区本郷3丁目39番4号
【電話番号】	(03)3815-2121(大代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 経理部長 福田 修一
【縦覧に供する場所】	株式会社ジャスダック証券取引所 (東京都中央区日本橋茅場町1丁目5番8号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第62期 第2四半期 連結累計期間	第63期 第2四半期 連結累計期間	第62期 第2四半期 連結会計期間	第63期 第2四半期 連結会計期間	第62期
会計期間	自平成20年 4月1日 至平成20年 9月30日	自平成21年 4月1日 至平成21年 9月30日	自平成20年 7月1日 至平成20年 9月30日	自平成21年 7月1日 至平成21年 9月30日	自平成20年 4月1日 至平成21年 3月31日
売上高（百万円）	42,813	41,578	22,759	22,110	89,551
経常利益（百万円）	3,166	2,901	2,007	1,958	6,711
四半期（当期）純利益（百万円）	1,658	1,114	1,029	1,004	3,770
純資産額（百万円）	—	—	74,203	74,466	74,795
総資産額（百万円）	—	—	99,183	98,030	101,200
1株当たり純資産額（円）	—	—	3,854.61	4,032.17	3,885.41
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（円）	86.19	58.56	53.47	53.26	195.88
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—	—	—
自己資本比率（%）	—	—	74.8	76.0	73.9
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	7,393	6,811	—	—	14,663
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△3,784	△3,617	—	—	△6,478
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△1,010	△3,266	—	—	△2,342
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（百万円）	—	—	24,502	27,562	27,634
従業員数（人）	—	—	2,626	2,670	2,666

（注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3 【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成21年9月30日現在

従業員数（人）	2,670（414）
---------	------------

(注) 従業員数は就業人員（グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であり、臨時雇用者数（パートタイマーを含む。）は、当第2四半期連結会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成21年9月30日現在

従業員数（人）	603（79）
---------	---------

(注) 従業員数は就業人員（社外から当社への出向者を含む。）であり、臨時雇用者数（パートタイマーを含む。）は、当第2四半期会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間における生産実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門	当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	
	金額 (百万円)	前年同四半期比 (%)
生体検査装置部門	1,677	69.6
生体情報モニター部門	1,201	116.1
治療装置部門	944	87.7
その他部門	1,155	95.6
合計	4,978	86.9

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 仕入実績

当第2四半期連結会計期間における仕入実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門	当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	
	金額 (百万円)	前年同四半期比 (%)
生体検査装置部門	1,409	91.6
生体情報モニター部門	261	121.2
治療装置部門	3,714	84.7
その他部門	3,426	95.8
合計	8,811	90.7

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

該当事項はありません。

(4) 販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門	当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	
	金額 (百万円)	前年同四半期比 (%)
生体検査装置部門	6,449	92.2
生体情報モニター部門	1,545	115.5
治療装置部門	8,919	94.8
その他部門	5,196	103.5
合計	22,110	97.2

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当社グループの経営成績は、当第2四半期連結会計期間において、連結売上高は221億10百万円（前年同四半期比2.8%減）となり、売上原価率の向上に伴い売上総利益は100億69百万円（前年同四半期比3.4%増）となりましたが、販売費及び一般管理費の増加により営業利益は19億50百万円（前年同四半期比4.5%減）、経常利益は19億58百万円（前年同四半期比2.5%減）となり、四半期純利益は10億4百万円（前年同四半期比2.4%減）となりました。

① 売上高

当第2四半期連結売上高は221億10百万円となりました。部門別には、生体検査装置部門で64億49百万円、生体情報モニター部門で15億45百万円、治療装置部門で89億19百万円、その他部門で51億96百万円であります。

② 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は、81億18百万円となりました。これは主に、人員増加に伴う人件費の増加や研究開発費の会計処理の変更に伴い試験研究費の増加があったことによります。

③ 営業利益

営業利益は、19億50百万円となりました。

④ 営業外損益

営業外収益から営業外費用を控除した営業外損益純額は、7百万円の収益超過となりました。

⑤ 経常利益

経常利益は、19億58百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、有形固定資産が増加したものの、受取手形及び売掛金ならびに商品及び製品の減少などにより、前連結会計年度末と比べて31億69百万円減少し、980億30百万円となりました。

この結果、自己資本比率は、76.0%（前連結会計年度末比2.1%増）となりました。

(3) 戦略の現状と見通し

当社グループは中期的目標として、中期3カ年経営計画を継続的に策定し、グループ全体の課題に対して随時検討を行い、実行に取り組んでおります。

(4) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、25億15百万円の収入（前年同四半期は24億42百万円の収入）となりました。これは、たな卸資産の減少等によるものです。

当第2四半期連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、19億21百万円の支出（前年同四半期は21億19百万円の支出）となりました。これは、有形固定資産の取得等によるものです。

当第2四半期連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、20億64百万円の支出（前年同四半期は3億81百万円の支出）となりました。これは、自己株式の取得等によるものです。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、第1四半期連結会計期間末に比べ14億95百万円減少し275億62百万円となりました。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

会社の支配に関する基本方針

①基本方針の内容

当社は、医療機器・用品が直接人間の保健・医療の分野に直結するという社会的使命を認識し、高い倫理的自覚のもとにその進歩に貢献し信頼される企業を目標として事業を営んでおります。

医療機器事業の特徴は、製品開発に医療機器を使用する顧客（医師及び医療従事者）との信頼関係に基づく長期

間にわたる連携・協業は必要不可欠であることにあります。そしてその開発の着想から市場に製品として送り出すまでには、臨床試験・医療機器の承認・製造業の許可・販売業の許可等取得に至るまで長期間にわたり相当の開発投資が必要です。

以上のことから、当社の事業は、中長期視野のもとに経営することが必要であり、短期的な利益を追い求めるような経営は許されるものではありません。今後も安定的かつ継続的に発展を続けていくために、先に述べた当社を支えてきていただいた方々への配慮のない経営は、当社の企業価値を損なうものと考えます。

②不適切な支配の防止のための取組み

当社は、平成18年6月29日に開催された第59回定時株主総会におきまして、フクダ電子株式の大規模買付行為に関する対応策「買収防衛策」（以下「本プラン」といいます。）の導入に関し、承認可決いただきました。

これは、大規模買付行為がなされようとする場合における対応策を定めたものであります。

対応策を要約しますと、買付行為の目的・方法及び内容等が当社の企業価値及び株主の皆様の共同の利益に資するものであるかどうかについて、大規模買付者に対して情報提供を求めるとともに、取締役会による評価や代替案の提示を目的とした大規模買付ルールを定め、交渉を行います。そして、買付ルールが遵守されない場合や、株主の皆様に株式の売却を事実上強要するおそれのある買付、買付の条件が当社の企業価値に鑑み不十分又は不適切な買付の場合には、企業価値評価特別委員会（以下、「特別委員会」といいます。）の諮問を経て、発動の検討を行います。

③具体的取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

当社の中期経営計画は、当社の企業価値・株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるための具体的方策として策定されたものであり、当社の基本方針に沿うものです。

また、本プランは、企業価値・株主共同の利益を確保・向上させる目的をもって導入されたものであり、基本方針に沿うものです。本プランの発動に際しては必ず特別委員会の判断を経ることが必要とされていること、特別委員会は当社の費用で第三者専門家を利用することができることとされていること、有効期限が株主総会后に最初に開催される取締役会の終了時点までであること、企業価値・株主価値向上の観点から取締役会によりいつでも廃止できるとされていること等により、その公正性・客観性が担保されており、企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであって、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間における研究開発活動の総額は、7億17百万円となりました。

なお、第1四半期連結会計期間から、研究開発活動における新製品開発に係る費用について、会計処理の変更を行っております。変更の内容については、「第5 経理の状況 1. 四半期連結財務諸表 四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更 1. 会計処理基準に関する事項の変更」に記載のとおりです。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末において計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	78,000,000
計	78,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成21年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成21年11月9日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	19,588,000	19,588,000	ジャスダック証券取引所	単元株式数 100株
計	19,588,000	19,588,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成21年7月1日～ 平成21年9月30日	—	19,588,000	—	4,621	—	8,946

(5) 【大株主の状況】

平成21年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する所 有株式数の割合 (%)
アトミック産業㈱	東京都文京区本郷3-13-6	2,486	12.69
東京エンタープライズ㈱	東京都文京区本郷3-35-4	1,447	7.39
フクダ電子㈱	東京都文京区本郷3-39-4	1,119	5.72
スティールパートナーズ ジャ パン ストラテジックファンド (オフショア) エルピー (常任代理人: 香港上海銀行東 京支店カストディ業務部)	C/OMORGANSTANLEYFUND SERVICES (CAYMAN) LTD. P. O. BOX 2681 GT, CENTURY YARD 4TH FLOOR, CRICKETS SQUARE HUTCHINS DRIVE GEORGETOWN GRAND CAYMAN, CAYMAN ISLANDS BRITISH WEST INDIES (東京都中央区日本橋3-11-1)	1,088	5.56
みずほ信託銀行㈱ 退職給付信 託 東京都民銀行口 再信託受 託者 資産管理サービス信託銀 行㈱	東京都中央区晴海1-8-12 晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワーZ棟	922	4.71
㈱みずほ銀行	東京都千代田区内幸町1-1-5	778	3.98
日本生命保険(相)	東京都千代田区丸の内1-6-6 日本生命証券管理部内	752	3.84
㈱三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	725	3.71
ダンスケ バンク クライアン ツ ホールディングス (常任代理人: 香港上海銀行東 京支店カストディ業務部)	HOLMENS KANAL 2-12. 1092 COPENHAGEN K DENMARK (東京都中央区日本橋3-11-1)	641	3.27
福田 順子	東京都文京区	550	2.81
計	—	10,514	53.68

(注) 「みずほ信託銀行㈱ 退職給付信託 東京都民銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行㈱」名義の株式922千株は、㈱東京都民銀行が保有する当社株式を退職給付信託として信託設定したものであり、議決権については㈱東京都民銀行が指図権を留保しております。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成21年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,119,900	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 18,454,700	184,547	—
単元未満株式	普通株式 13,400	—	—
発行済株式総数	19,588,000	—	—
総株主の議決権	—	184,547	—

(注) 単元未満株式には当社所有の自己株式11株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成21年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
(自己保有株式) フクダ電子(株)	東京都文京区本郷 3-39-4	1,119,900	—	1,119,900	5.72
計	—	1,119,900	—	1,119,900	5.72

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年 4月	平成21年 5月	平成21年 6月	平成21年 7月	平成21年 8月	平成21年 9月
最高 (円)	1,975	2,150	2,615	2,350	2,730	2,880
最低 (円)	1,798	1,820	2,205	1,907	1,930	2,480

(注) 最高・最低株価はジャスダック証券取引所におけるものであります。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の異動はありません。

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第2四半期連結会計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第2四半期連結会計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	28,152	28,224
受取手形及び売掛金	19,696	23,319
有価証券	998	999
商品及び製品	7,783	8,483
仕掛品	50	44
原材料及び貯蔵品	1,637	1,642
その他	3,086	2,951
貸倒引当金	△199	△243
流動資産合計	61,205	65,421
固定資産		
有形固定資産	※1 20,277	※1 19,975
無形固定資産	2,424	2,668
投資その他の資産		
その他	14,139	13,151
貸倒引当金	△16	△16
投資その他の資産合計	14,122	13,134
固定資産合計	36,824	35,778
資産合計	98,030	101,200
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,575	12,401
短期借入金	2,166	2,866
未払法人税等	1,036	1,697
賞与引当金	1,653	1,739
その他の引当金	56	116
その他	2,382	3,043
流動負債合計	18,871	21,865
固定負債		
長期借入金	19	50
退職給付引当金	3,412	3,230
その他の引当金	166	192
負ののれん	—	0
その他	1,093	1,065
固定負債合計	4,692	4,538
負債合計	23,564	26,404

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,621	4,621
資本剰余金	9,982	9,982
利益剰余金	62,029	61,693
自己株式	△2,501	△766
株主資本合計	74,131	75,531
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	448	△595
為替換算調整勘定	△113	△149
評価・換算差額等合計	334	△745
少数株主持分	—	9
純資産合計	74,466	74,795
負債純資産合計	98,030	101,200

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	42,813	41,578
売上原価	24,121	22,305
売上総利益	18,691	19,272
販売費及び一般管理費	※1 15,590	※1 16,469
営業利益	3,101	2,803
営業外収益		
受取利息	11	8
受取配当金	91	85
為替差益	—	13
その他	149	68
営業外収益合計	251	175
営業外費用		
支払利息	31	15
為替差損	120	—
投資事業組合運用損	—	54
その他	35	7
営業外費用合計	187	77
経常利益	3,166	2,901
特別利益		
固定資産売却益	5	3
保険差益	—	33
保険解約益	100	170
貸倒引当金戻入額	21	43
その他	1	2
特別利益合計	128	253
特別損失		
固定資産売却損	3	0
固定資産除却損	111	12
投資有価証券評価損	139	680
減損損失	13	4
前期損益修正損	—	※2 129
その他	1	7
特別損失合計	270	834
税金等調整前四半期純利益	3,024	2,320
法人税、住民税及び事業税	1,448	1,228
法人税等調整額	△83	△22
法人税等合計	1,364	1,205
少数株主利益	1	0
四半期純利益	1,658	1,114

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)
売上高	22,759	22,110
売上原価	13,017	12,041
売上総利益	9,741	10,069
販売費及び一般管理費	* 7,699	* 8,118
営業利益	2,042	1,950
営業外収益		
受取利息	7	4
受取配当金	12	2
為替差益	—	21
その他	64	46
営業外収益合計	83	74
営業外費用		
支払利息	13	7
為替差損	72	—
投資事業組合運用損	—	54
その他	32	4
営業外費用合計	118	67
経常利益	2,007	1,958
特別利益		
固定資産売却益	3	0
保険差益	—	10
保険解約益	—	53
その他	1	—
特別利益合計	4	64
特別損失		
固定資産売却損	3	—
固定資産除却損	110	2
投資有価証券評価損	127	23
減損損失	5	—
その他	0	—
特別損失合計	247	26
税金等調整前四半期純利益	1,765	1,996
法人税、住民税及び事業税	554	823
法人税等調整額	181	168
法人税等合計	735	991
少数株主利益	0	—
四半期純利益	1,029	1,004

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,024	2,320
減価償却費	2,578	2,786
事業整理損失引当金の増減額 (△は減少)	—	△3
減損損失	13	4
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△24	△44
賞与引当金の増減額 (△は減少)	15	△86
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	77	182
その他の引当金の増減額 (△は減少)	△67	△81
受取利息及び受取配当金	△102	△93
支払利息	31	15
固定資産売却損益 (△は益)	△1	△3
固定資産除却損	111	12
投資有価証券評価損益 (△は益)	139	680
保険解約損益 (△は益)	△100	△170
売上債権の増減額 (△は増加)	3,200	3,617
たな卸資産の増減額 (△は増加)	607	721
仕入債務の増減額 (△は減少)	△446	△634
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△39	△179
その他	△818	△686
小計	8,200	8,356
利息及び配当金の受取額	94	86
利息の支払額	△29	△15
保険金の受取額	—	68
法人税等の支払額	△872	△1,683
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,393	6,811
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	△10	0
有形固定資産の取得による支出	△2,864	△3,073
無形固定資産の取得による支出	△110	△165
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△700	△800
有価証券及び投資有価証券の売却による収入	700	700
短期貸付金の貸付による支出	△100	—
保険積立金の積立による支出	△537	△589
保険積立金の払戻による収入	182	241
その他	△343	69
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,784	△3,617

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△200	△700
長期借入金の返済による支出	△33	△30
自己株式の取得による支出	—	△1,735
自己株式の売却による収入	0	0
配当金の支払額	△768	△770
少数株主への配当金の支払額	△1	—
リース債務の返済による支出	△7	△30
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,010	△3,266
現金及び現金同等物に係る換算差額	△53	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,543	△72
現金及び現金同等物の期首残高	21,958	27,634
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 24,502	* 27,562

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	<p>当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)</p>
1. 会計処理基準に関する事項の変更	<p>研究開発費の会計処理</p> <p>従来、研究開発活動における新製品開発に係る費用は、製造原価として売上原価に計上していましたが、新技術や新機構の開発等、研究開発としての要素が強まり原価性が乏しくなったため、新製品開発に係る費用をより適正に管理するシステム構築を行ったことを契機に、売上に対応する原価の把握を適切にし、期間損益をより適正に表示することを目的として、第1四半期連結会計期間より一般管理費として処理する方法に変更しました。</p> <p>この変更により、従来の方によった場合と比べ、当第2四半期連結累計期間の売上原価は694百万円減少し、売上総利益は同額増加しておりますが、販売費及び一般管理費が717百万円増加したため、営業利益及び経常利益が23百万円減少しました。</p> <p>また、期首たな卸資産に含まれていた製造間接費のうち研究開発費相当額129百万円を特別損失に計上したため、税金等調整前四半期純利益が152百万円減少しております。</p>

【表示方法の変更】

	<p>当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)</p>
(四半期連結損益計算書)	<p>前第2四半期連結累計期間において、営業外費用の「その他」に含めて表示しておりました「投資事業組合運用損」は、営業外費用総額の100分の20を超えたため、当第2四半期連結累計期間では区分掲記することとしました。</p> <p>なお、前第2四半期連結累計期間の営業外費用の「その他」に含まれる「投資事業組合運用損」は2百万円であります。</p>

	<p>当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)</p>
(四半期連結損益計算書)	<p>前第2四半期連結会計期間において、営業外費用の「その他」に含めて表示しておりました「投資事業組合運用損」は、営業外費用総額の100分の20を超えたため、当第2四半期連結会計期間では区分掲記することとしました。</p> <p>なお、前第2四半期連結会計期間の営業外費用の「その他」に含まれる「投資事業組合運用損」は2百万円であります。</p>

【簡便な会計処理】

	<p>当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)</p>
税金費用の計算	<p>連結子会社の税金費用の計算にあたり、税引前四半期純利益に前年度の損益計算書における税効果会計適用後の法人税等の負担率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は法人税、住民税及び事業税に含めて表示しております。</p>

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）
該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
※1 有形固定資産の減価償却累計額は、19,314百万円です。	※1 有形固定資産の減価償却累計額は、19,124百万円です。
2 手形割引高 (輸出手形割引高) 31百万円	2 手形割引高 (輸出手形割引高) 397百万円

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
※1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。	※1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。
役員従業員給料手当等 5,596百万円	役員従業員給料手当等 5,712百万円
賞与及び賞与引当金繰入額 1,312百万円	賞与及び賞与引当金繰入額 1,262百万円
役員退職慰労引当金繰入額 25百万円	役員退職慰労引当金繰入額 19百万円
退職給付費用 351百万円	退職給付費用 451百万円
減価償却費 731百万円	減価償却費 762百万円
役員賞与引当金繰入額 49百万円	役員賞与引当金繰入額 56百万円
	※2 前期損益修正損 研究開発活動における新製品開発活動に係る費用について、第1四半期連結会計期間より会計処理の変更を行ったため、期首たな卸資産に含まれていた製造間接費のうち研究開発費相当額129百万円を前期損益修正損として、特別損失に計上しております。

前第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
※ 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。	※ 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。
役員従業員給料手当等 2,894百万円	役員従業員給料手当等 2,958百万円
賞与及び賞与引当金繰入額 559百万円	賞与及び賞与引当金繰入額 495百万円
役員退職慰労引当金繰入額 16百万円	役員退職慰労引当金繰入額 9百万円
退職給付費用 175百万円	退職給付費用 225百万円
減価償却費 384百万円	減価償却費 387百万円
役員賞与引当金繰入額 38百万円	役員賞与引当金繰入額 31百万円
貸倒引当金繰入額 17百万円	貸倒引当金繰入額 2百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年9月30日現在)	※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年9月30日現在)
現金及び預金 25,095百万円	現金及び預金 28,152百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金 △592百万円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金 △590百万円
現金及び現金同等物 24,502百万円	現金及び現金同等物 27,562百万円

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成21年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 19,588千株

2. 自己株式の種類及び株式数

普通株式 1,119千株

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成21年6月26日 定時株主総会	普通株式	769	40	平成21年3月31日	平成21年6月29日	利益剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当第2四半期連結会計期間末までに属する配当のうち配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成21年10月29日 取締役会	普通株式	738	40	平成21年9月30日	平成21年12月4日	利益剰余金

5. 株主資本の著しい変動に関する事項

当社は、平成21年8月19日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づく自己株式の取得に係る事項について決議し、平成21年8月25日付けで固定価格取引により、普通株式779,700株、取得総額1,734百万円の自己株式を取得しております。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)及び当第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)並びに前第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

医用電子機器事業の売上高及び営業利益の金額は、全セグメントの売上高の合計及び営業利益の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)及び当第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)並びに前第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)及び当第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)並びに前第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(有価証券関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成21年9月30日)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度末と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成21年9月30日)

当社グループは、デリバティブ取引を全く利用しておりませんので、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
1株当たり純資産額 4,032.17円	1株当たり純資産額 3,885.41円

2. 1株当たり四半期純利益金額等

前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額 86.19円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純利益金額 58.56円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
四半期純利益(百万円)	1,658	1,114
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	1,658	1,114
期中平均株式数(千株)	19,247	19,025

前第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額 53.47円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純利益金額 53.26円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
四半期純利益(百万円)	1,029	1,004
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	1,029	1,004
期中平均株式数(千株)	19,247	18,858

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

当第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)

リース取引開始日が会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に準じて処理を行っておりますが、当四半期連結会計期間におけるリース取引残高は前連結会計年度末に比べて著しい変動が認められなかったため、その記載を省略しました。

2【その他】

(1) 平成21年10月29日開催の取締役会において、第63期の中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

配当金の総額 738百万円

1株当たりの金額 40円00銭

支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成21年12月4日

(注) 平成21年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年11月12日

フクダ電子株式会社

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 平井 清 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 山本 守 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 大谷 はるみ 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているフクダ電子株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、フクダ電子株式会社及び連結子会社の平成20年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年11月9日

フクダ電子株式会社

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 平井 清 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 山本 守 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 大谷 はるみ 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているフクダ電子株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、フクダ電子株式会社及び連結子会社の平成21年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

追記情報

四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更「1. 会計処理基準に関する事項の変更」に記載されているとおり、会社は、従来、研究開発活動における新製品開発に係る費用は製造原価として会計処理を行っていたが、第1四半期連結会計期間より一般管理費として処理している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年11月9日
【会社名】	フクダ電子株式会社
【英訳名】	FUKUDA DENSHI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 福田 孝太郎
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都文京区本郷3丁目39番4号
【縦覧に供する場所】	株式会社ジャスダック証券取引所 (東京都中央区日本橋茅場町1丁目5番8号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 福田孝太郎は、当社の第63期第2四半期（自平成21年7月1日 至平成21年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。